

☆ 第三者評価委員からのコメントを抜粋

青山先生

- ・ 学びのこと（生徒の認識）

私たちの学校は他の公立小学校とは異なり、生徒が自ら目標を定め、自主的に学びを実践し、その結果を振り返ることができる。

このプロセスを通じて、彼らはより深い理解を得ると同時に、自己評価能力も向上する。

- ・ 学習指導と生徒指導別ではなくそれぞれが一体化していることで、個々のニーズに適したサポートを提供できるのではないか。

荒井先生

- ・ 「知識」や「技能」のイメージ

「知識」「技能」のイメージをより明らかにすることで、身につけるべきものがはっきりしていくのではないか。

- ・ 「学習の目的」や「やること」の明確化

上と同様に、目的はなにか、何をやるのかが子どもたちに分かりやすく届くようにしていくとよい。

・ 学び方の多様性の理解、自分自身の手応え、間違った方向への努力に対する伴走
大日向小学校・中学校には、多様な学び方がある。その多様性を理解するとともに、スタッフは、その子自身が感じている手応え、進んでいる方向性があるかどうかを一緒に確認していくことが望まれる。

- ・ 情報発信の方法と頻度（ニーズの特定）

現状、外部向けの情報発信が少ない状況であると思う。現状、情報発信を増やすことは難しいが、ニーズを特定し、適切に情報発信をしていくことが必要ではないだろうか。

- ・ スタッフの迷いと合意形成

スタートしてまだ間もない学校だからこそ、それぞれに迷いがあるのではないかと思う。実践を重ね、合意形成を行っていくことをこれからも積み重ねてほしい。

- ・ 「シティズンシップ教育」も視野に入れてみるのもいいかもしれない。